

October / November
2023 No.25

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

第22回カンボジア産婦人科学会年次学術会合が開催されました

2023年11月17日、プノンペンホテルにて第22回カンボジア産婦人科学会(SCGO)年次学術会合が開催されました。4年ぶりに日本産科婦人科学会(JSOG)医師の派遣が叶い、プロジェクトマネージャーである大須賀稯医師(東京大学)が開会の挨拶を行いました。また、プログラムには子宮頸がんに関する講演が4つあり、JSOG幹事である芳川修久医師(名古屋大学)が日本の最新状況について講演を行いました。

写真右: プロジェクトマネージャーの大須賀稯医師(東京大学)

写真下: 参加者全員で記念撮影



カンボジアでの現地活動に参加して

日本産科婦人科学会 渉外委員会主務幹事
森 蘭代(東京大学)

2023年11月17日、第22回カンボジア産婦人科学会(SCGO)シンポジウムが開催されるのに併せて、4年ぶりに日本産科婦人科学会(JSOG)からカンボジアへの幹事医師派遣が叶いました。今回、JSOGから本事業のプロジェクトマネージャーでもある大須賀穰副理事長・渉外委員長、芳川修久医師(名古屋大学)と一緒に訪柬することになりました。

シンポジウムに先駆けて、プノンペン市内にある国立病院3施設を訪問・視察し、本事業のフェーズ1に実施された事業の一つである、コルポスコピー検査技能の確認を行いました。訪問が叶わなかった四年間でも、カンボジア国内で後進への技術伝達がある程度行われていること、機器の不具合があってもスマートフォンを用いた Smartscopy という新規技術を上手く適応させていることなどを確認する事ができました。また個人的にはクメールソビエト友好病院(KSFH)では神経温存広汎子宮全摘術に関する講演を行う機会を頂きました。オンラインで他の施設の医師にも配信され、講演後には非常に多くの質問があり、カンボジア産婦人科医の意欲の高さに圧倒されました。

16日には JSOG、SCGO、JICA、カンボジア保健省の4者が参加した調整会議が行われ、本事業としての成果の達成状況や現在の課題、今後の展望について議論を行いました。本事業の成果を生かして、今後のカンボジアにおける健康教育・検診の発展における、JSOGの協力についてなどが話し合われました。第22回 SOGC シンポジウムでは大須賀穰 JSOG 副理事長から開会の挨拶が行われ、芳川医師からの日本における子宮頸がん診断と治療に関する講演が行われました。同席されていた藤田則子医師は本事業の開始以前よりカンボジアの産婦人科診療支援を続けておられますが、シンポジウムにおいて活発な質疑応答が行われる状況に隔世の感を覚えたとのことでした。

カンボジア国内では9歳女兒へのHPVワクチン接種事業が2023年10月から開始となり、また検診としてはHPV検査を活用することが決定しました。子宮頸がんの一次予防・二次予防についてある程度道筋が整理されてきており、SCGOは確実に自立の道を歩んでいると思われれます。一方で、カンボジア唯一のがん拠点病院としての位置付けである KSFHであっても、病理医が1人しか在籍しておらず、また外照射が可能な放射線機器が一つしかなく、放射線治療開始まで半年を要すること、腔内照射機器は故障しており使用が出来ないことなど、非常に多くの問題を抱えておりました。より専門性の高い、浸潤がんに対する治療というところに JSOG からの支援が必要であるとの訴えを聞く事が多くありました。日本の診療をそのまま持ち込むことは不可能な状況で、どのように JSOG として支援が可能であるのか難しい課題であると認識しましたので、残り半年強ある本事業の期間において、今後の支援活動の内容をある程度整理できるとよいと思われました。



JSOG、SCGO、カンボジア保健省、JICA カンボジア事務所との
合同調整会議の様子



写真上: 来年度学会発表を行う予定の若手医師の指導
写真下: 講演後に質問をするカンボジア産婦人科医

カンボジア若手医師の 自己成長や技能習得に対する意欲を感じた1週間

日本産科婦人科学会 渉外委員会幹事
芳川修久(名古屋大学)

日本産科婦人科学会(JSOG)-カンボジア産婦人科学会(SCGO) JICA 草の根技術協力事業「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」の一環で、大須賀穰副理事長・渉外委員長、森繭代渉外主務幹事とともにカンボジアへ訪問させていただきました。カンボジアの医療体制は、がん治療の拠点病院であるクメールソビエト友好病院においてさえ放射線治療機器の不具合が何年経っても修理されないままの状況であることや NICU も人手不足で家族の付き添いが前提であることなど、日本の充実した状況とは格段の違いを感じました。

今回の訪問ではコルポスコピーの視察・指導が主目的でありましたので手術等他の現場を見学する機会はありませんでしたが、医療資源アクセスへの制約の中でどのように日本での経験を生かすかという視点が必要だと感じました。また、とにかくカンボジア若手医師の自己成長や技能習得に対する強い意欲を感じる1週間でもありました。ある医師はコルポスコピーの所見の一つ一つの意味を理解できるまで何度も質問してくれましたし、また別の若手医師は昼食中に治療方針に悩む卵巣癌症例の相談をしてきてくれました。彼らの熱意に触れるにつけ、カンボジアの産婦人科医療の将来は明るく、JSOGメンバーとしてまだまだ役に立てることがあると感じました。



対象病院での視察・指導時の様子



日本の子宮頸がんの状況について講演



カルメット病院婦人科チームと記念撮影。写真中央が芳川医師(名古屋大学)。その左隣は森医師(東京大学)